

< 高付加価値型農業の実践を行っている事例 >

## なたねで放任園地解消と農村景観の形成を目指して

### 1. 集落協定の概要

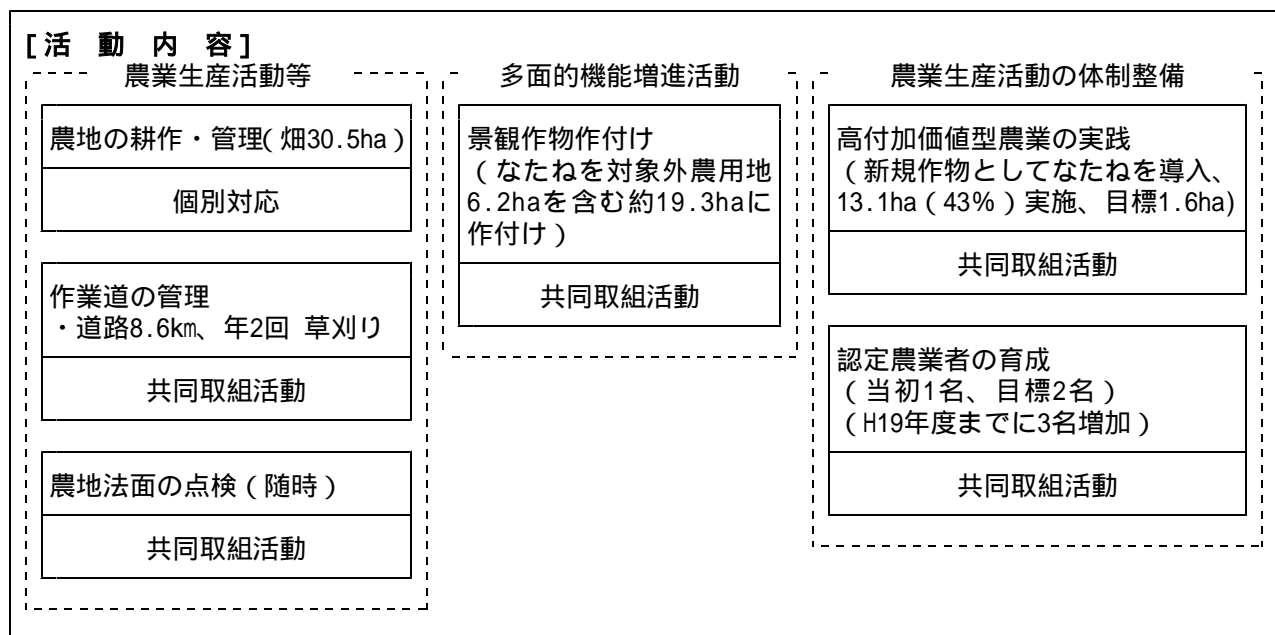
市町村・協定名	青森県黒石市 <small>くろいしし</small> 牡丹平開拓パイロット組合 <small>ぼたんたいらかいたく</small> <small>くみあい</small>				
協定面積 30.5ha	田	畑 (100%) りんご・なたね	草地	採草放牧地	
交付金額 351万円	個人配分			50%	
	共同取組活動 (50%)			体制整備に関する活動経費	30%
				農道・水路等の維持管理等経費	20%
協定参加者	農業者 75人				

### 2. 集落マスタープランの概要

当集落は黒石市街地から6kmほど東に位置し、山間部の急傾斜地を利用したりんご主体の農業地帯で、寒暖の差が大きいことから、おいしいりんご産地として知られている。

しかし、生産者の高齢化と、りんご園地の平地への移行により、山間地の放任園地が増加し、病害虫の発生源となっていた。

そこで、放任園地の伐採・整地を行い、労働負担が少ないなたねを新規作物・景観作物として導入し、さらに認定農業者を1名以上育成するなど、継続性のある農業生産活動が可能になるよう取り組むこととした。



### 3. 取組の経緯及び内容

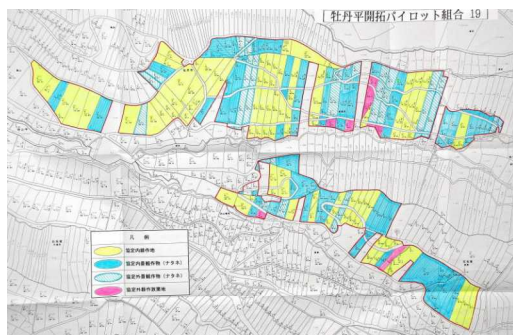
りんご生産農家全員がエコファーマーに認定されており、環境に配慮した持続性の高い農業生産を行っているが、生産者の高齢化やりんご園が急傾斜という作業性の不便さもあり、農業離れが進んでいた。そこで、高齢の農業者でもできる新規作物の導入と将来の地域農業の担い手を育成するため、本制度に取り組むこととした。

5年間で認定農業者を1名増加させることを目標として取り組んだ結果、平成19年度までに新たに3名が認定された。

また、新規になたねを作付けし、今年の秋には最終年度の目標面積を大幅に上回る取組となった。急傾斜地への作付のため、現在のところ耕作放棄地の解消と景観形成にとどまり、収穫・販売には至っていないが、今後、販売計画を策定し実践していくこととしている。

これらに加え、放任園地の伐採・整地を進め、耕作放棄地の解消や農村の景観形成に取り組んだり、冬期間に農道を除雪し園地の雪害対策や剪定作業の効率化を図るなど、多面的機能の維持・増進を図りながら生産性の向上に努めている。

#### 農用地等保全マップ



農道の補修位置、耕作放棄地、新規作物（なたね）の作付位置、協定に含めないほ場の位置等を色分けし、活動する際に誰にでもわかるように図面に示した。



新規作物のなたね



農道の整備・草刈り

#### 【平成19年度までの主な効果】

所得向上に向けた新規作物としてなたねを導入（当初0ha、目標1.6ha、H19実績13.1ha）

認定農業者の育成（当初1名、目標1名、平成19実績1名認定）

農道等の補修、定期的な除草等の作業の継続（8.6km、年2回）

協定農用地に含めていない既耕作放棄地6.2haになたねを作付けし、保全管理を行った。